

# 講座・イベント情報

※費用が明示されていないイベントは無料。  
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXかメールでラコルタまで。  
電話：06-6155-3167 FAX：06-6833-9851 メール：info@suita-koueki.org

テーマ  
カフェ

“吹田ではじめるソーシャルな生き方”

## えんカレ 第二期 受講生募集

「何か活動をしてみたい」「人とつながりたい」  
「地域や社会の役に立ちたい」といった  
一人一人の思いをカタチに変え、ソーシャルな生き方について  
講座やボランティア体験などを通して考える学び舎です。

- 申込み締切：1月5日(火) ●全6回
- 定員：20名 ●主催：ラコルタ

毎月テーマが決まっています。  
皆さんと一緒に気軽にお話ししましょう！  
どなたでも気軽にご参加いただけます！

12月17日(木) **アナログゲームナイト**  
ドイツのボードゲームを体験しながら  
コミュニケーションについて考えます。0  
●とき：19:00～21:00 ●定員：先着15名

2016年1月27日(水) **社会を変えるスポーツの力**  
ホームレスサッカーに取り組んでいる、  
ビッグイシュー基金の方をゲストに開催します。  
●とき：19:00～20:40 ●定員：先着15名

自分にあったボランティア活動を見つけませんか？  
『市民公益活動入門講座』 各定員10名  
●12月17日(木) 昼 13:30～15:00  
●1月22日(金) 夜 19:00～20:30  
●2月20日(土) 朝 10:30～12:00

2016年3月6日(日) **避難所運営ゲーム HUG**  
カードを使って避難所運営の模擬体験をします。  
●とき：10:00～12:00 ●定員：先着40名  
●会場：千里市民センター大ホール

## 第9回 連載 私たちの団体・私たちの活動

市民公益活動団体インタビュー

### 更生保護サポートセンター吹田

Q 開所の経緯は？

A 犯罪・非行に関する相談の受付や、更生保護に関する情報発信の拠点として今年の10月に開設しました。吹田地区保護司会に所属する保護司が常駐しています。

Q 更生保護とは？

A 犯罪や非行をした人の立ち直りを社会の中で見守り、地域の中で支えていく取組です。保護司会をはじめ、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会等が、更生保護に関する取組を行っています。

Q それぞれの活動は？

A 更生保護女性会では、少年院への慰問や子育て支援などの活動を、BBS会では、若い世代を中心に、兄・姉のような存在として少年少女の健全な育成を支援しています。協力雇用主会では、9つの事業所が雇用環境の支援をしています。



更生ペンギンの「ホゴちゃん」

＜更生保護サポートセンター吹田への連絡先は＞ ※相談等で来所される場合は、事前に電話予約をお願いします。  
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号 千里ニュータウンプラザ5階 電話：06-6836-7311  
【開所時間】月曜～金曜日(土・日・祝・年末年始は除く) 午前10時～午後4時

**ぶちボラ** 働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる(ぶち)ボランティア活動」のプログラムを提供します。

**ラコルタサポーター**  
ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとしてお手伝いいただけます。↑詳しくはWebで

**編集後記** 今年の5月からラコルタの非常勤職員となりました中井です。ニュースレターの編集スタッフもしています。窓口ではみなさんに気持ちよくご利用いただけるよう、エブリデスマイルでお待ちしています(^^)まだまだ不慣れですが、これからもどうぞよろしくをお願いします。(中井)

＜発行責任者＞柳瀬真佐子  
＜編集スタッフ＞茨木由美・伊富貴順一・鍵谷誠一・佐藤和男・中井まり・春貴勇力 (五十音順)

ラコちゃん ルタちゃん  
吹田市市民公益活動センター  
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号 千里ニュータウンプラザ6階  
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851  
Eメール info@suita-koueki.org  
ホームページ http://suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

ラコルタへのアクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階



Newsletter VOL.13 出会う→集う→育てる→実る

# ラコルタ

吹田市立市民公益活動センター

ラコルタの  
ココに注目!  
本号は...  
**スポーツ  
ボランティア**  
中面特集ページ! →→→→→

8月21・28日(金) **情報発信講座**  
9月12日(土)

チラシづくりに必要な意見を出し合いました

テーマカフェ **これからの働き方**  
“コミュニティワークについて考えよう”  
11月14日(土) 身近な話題で大いに盛り上がりました!

8月から9月にかけて、情報発信に関する講座を開催しました。

「〇〇が伝わるチラシづくり講座」では、真面で活動されている永田千砂さん(ちまちま工房)を講師にお招きし、のべ35名の方にご参加いただきました。2日間にわたり開催した本講座は、伝わるコツの考え方や、チラシづくりの“ゴクイ”について学びました。

9月にはラコルタ職員が講師となり「知らないと損する広報の基礎」を開催し、16名の方にご参加いただきました。ワークショップを中心とし、ターゲットのしぼり方や、広報のゴールなどについて学ぶ場となりました。PRという言葉には、単なる宣伝ではなく“社会との関係づくり”という視点が含まれます。より良い関係を築くことが、広報の基礎となることをお話しさせていただきました。

皆さん真剣!是非ご活用ください!

4人1組で広報計画を考えました

## THE PICKUP

ラコルタの取り組みを紹介!

ペイドワーク(有償の仕事)とアンペイドワーク(無償の仕事)、この2つのキーワードから、これからの地域づくりに欠かせない「市民力」を高めるポイントについて活発な意見交換が行われました。アンペイドワークとは家事や育児、介護など、社会を支えていくものや、NPOや自治会、PTAなどのボランティア活動が多く含まれます。つまり、対価で評価されていませんが、地域生活に欠かせない大切な仕事と言えます。対価ではなく続けていくモチベーションの多くは、「好き」「楽しい」はもちろんのこと、「学び」や「人からの感謝」、「出会い」「地域でのつながりが広がる」などの意見が出ました。自分の人生を豊かにすることができる仕事だからこそ続けられる、その一方で、ワークライフバランスのとり方や、無関心な人へアンペイドワークの価値をどう伝えていくのかといった課題も出ました。終了後もしばらく参加者同士で話が盛り上がり、今回をきっかけに今後のテーマカフェに取り上げたいテーマも生まれました。

# 自分と仲間と地域を元気に!

～スポーツボランティアとは～



空前のマラソンブームや健康志向の高まり、さらに2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を受けて、運動・スポーツ・健康への興味・関心は広がりを見せている。そして、スポーツを「ささえる」人、スポーツボランティアの注目度も上昇中である。「スポーツボランティア」というと、特別な知識や技術、資格などが必要となるのではないかと、いったイメージが強く、参加へのハードルが上がってしまう方も多いようである。

いいえ! 大きな誤解である! 例えば、京都マラソンでは、気持ちがあれば参加できるランナー受付・大会運営(給水)などに加え、語学ボランティアの募集枠を設けるなど、スポーツボランティアといっても、スポーツの専門性を問わない内容も多い。また、京都マラソンがスポーツボランティアデビューとなった市民の割合が多いことが分かっている。ボランティアの参加動機は「地域貢献」のためが半数を占め、さらに、ランナーや沿道応援の方、ボランティア同士の「交流」もきっかけとなっている。ボランティアの動機を大きく2つに分類すると、自分への見返りに関係なく他人のために活動を行う「利他的動機」と、自分に何らかのベネフィット(便益)があるために活動を行う「利己的動機」に分けることが可能であり、スポーツボランティア参加動機の特徴の1つは、利己的動機の「交流」であることも分かっており、ボランティアマネジメントにおいては重要な視点となる。

スポーツが市民公益活動として、これから社会で果たす役割はますます広がりを見せる。例えば、新スタジアム建設にあたっては、スポーツ振興のみならず、青少年の健全育成、にぎわいの創出、地域経済の活性化など、様々な分野において活力あるまちづくりが期待されている。また、操車場跡地の健康増進公園の整備においては、健康・医療のまちづくりが基本方針となっており、いずれの場所にも多方面の団体・組織とスポーツボランティアとの協働は欠かせない。さらに、関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催も控え、健康・運動・スポーツ+地域の活性化に関わるボランティアという意味での「スポーツボランティア」の存在はますます重要になる。スポーツボランティアを通して、自分自身も仲間も地域も元気になった!という声をぜひ期待している。



**松永 敬子さん**  
龍谷大学 経営学スポーツサイエンスコース教授、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター副センター長

専門はスポーツマネジメント。スポーツとまちづくりや地域スポーツのボランティアなどについて研究・実践を行っている。主な著書に「スポーツ産業論第6版」(杏林書院)などがある。(公財)日本体育協会マネジメント資格部会員なども務める。

ラコルタのココに注目!  
本号は...

# スポーツボランティア

はじめよう!

Sports Volunteer

9月30日に、市立吹田サッカースタジアムが竣工されました。スタジアムは、個人(のべ34,627名)と、法人(のべ721社)からの寄付金で建設されており、助成金もあわせると総額140億円にものぼります。スポーツには、従来の「見る」に加えて、「支える」という面が注目を浴びていますが、スタジアム建設は、まさに「支える」人たちの力が大きかったと思います。また、この「支える」スポーツに欠かせないのが「ボランティア」の存在です。2012年のロンドンオリンピックでは、約7万人にのぼるボランティアが大会運営に関わったといわれています。2020年に東京オリンピック・パラリンピックをひかえる中で、今後ますますスポーツボランティアへの関心が高まっていきそうです。

11月にOPENした市立吹田サッカースタジアム!

「支える」という面で、ボランティア活動をするだけではなく、スポーツを「する」ことで社会貢献や課題解決に繋がる活動もたくさんあります。

# 社会貢献×スポーツ



## 吹田 中の島チャリティ・ラン

元オリンピック選手の有森裕子さんに名誉会長を務めてもらい、毎年500名近いランナーが参加しています。大会参加費などで集まった募金総額は400万円を超え、カンボジアの義肢義足支援や、被災地への義援金として役立てています。参加者はリピーターが多く、ランナーを引退した方も大会運営のボランティアとして関わってくれています。残念ながら通算30回目となる2016年9月11日をもってラストランとなります。ラストランの一般募集は4月中旬頃を予定しています。



## のまスポ塾

“のま”とはノーマライゼーション(障がいのある人もない人も分け隔てなくともに暮らしていく考え)を意味しています。障がいのあるなしだけでなく、年齢、性別に関係なく、誰でも一緒に楽しめるスポーツを通じて、お互いを理解し合い、ノーマライゼーションの理念を体感、広めていくことを目的としています。月1回、片山体育館で開催している「ふうせんバレーボール」では、障がい者3名、健常者3名を基本チームとし、鈴が入った大きな風船で競技をします。全員がボールに触ることがルールで決められており、お互いを思いやる心が育まれます。



認定NPO法人

## ビッグイシュー基金

ホームレスの自立には、仕事や住居だけではなく、人との繋がりや生きがいを取り戻すことも重要です。生きる希望まで失った“ホープレス”状態を解消する1つの手段として、当事者によるスポーツ活動を応援しています。サッカー部は月1回、扇町公園で練習をしており、グラウンドがとれた月は野球部も活動しています。競技の中での小さな成功体験が、自尊心に繋がっていきます。また、ボランティアで参加する人にとっては、身体を動かしながらのコミュニケーションを通じて、ホームレスの人たちとフラットな関係づくりができる場となっています。



クラブ・イベント・アスリート ボランティア

の種類  
※笹川スポーツ財団スポーツ白書  
2014より引用

クラブ・イベント ボランティア

アスリート ボランティア

地域スポーツクラブやスポーツ団体におけるボランティアで、日常的に行われる活動といえます。監督やコーチなどを務める「ボランティア指導者」と、クラブや団体の役員・幹事、送迎する運転手、道具を準備する保護者などの「運営ボランティア」があります。

地域における市民マラソンや運動会、更には、国体や国際大会を支えるボランティアで、不定期に行われる活動です。専門的な知識や技術が必要な「専門ボランティア」と、特別な技術や知識を必要とせず誰もが参加できる「一般ボランティア」に分けられます。

現役・OBのプロスポーツ選手やトップアスリートによるボランティア活動です。オフシーズンに福祉施設を訪ねたり、ジュニアのスポーツ指導や地域のイベントに参加するなどの社会貢献活動が挙げられます。